

【解答】

イーロン・マスクの野望と火星移住計画

【解答】

問 1 (1)ア (2)イ (3)エ (4)ウ

問 2 ④

問 3 (A)② (B)③ (C)③ (D)①

問 4 これらの幼少期の経験は、困難な問題であっても、知識、発明、そして粘り強さによって解決できるという信念を形成する助けとなった。

問 5 再利用可能なロケットの開発に成功したこと。

問 6 彼の構想が最終的に実現するかどうかは別として、それはすでに多くの人々の宇宙開発の未来に対する考え方を変えている。

問 7 ア・ウ

【本文全訳】

イーロン・マスクは、人類を複数の惑星に住む種にするという壮大な目標で広く知られている。多くの企業経営者が短期的な経済的成功に注目する一方で、マスクは、人類文明が長期的に存続するためには地球の外に自立可能な共同体を築く必要があると繰り返し主張してきた。彼の最も有名な計画は、多くの人々を火星へ送り、最終的に恒久的な居住地を建設することである。マスクによれば、一つの惑星だけに存在する文明は、自然災害や世界規模の紛争、その他の予想外の出来事による危険に直面する。そのため彼は、人類が将来を地球だけに依存すべきではないと考えている。この構想は、SpaceX の中心的な目標の一つとなっている。

マスクの科学や宇宙への関心は、成功した起業家になるずっと以前から始まっていた。彼は 1971 年に南アフリカのプレトリアで生まれ、本やコンピュータ、そして知的探究が重要な役割を果たす環境で育った。子どもの頃の彼は物静かで、

特に SF 小説や百科事典、探検に関する本に深く没頭していた。彼の幼少期についての記録には、彼が社会的に孤立し、時には他の子どもたちからいじめを受けていたと記されているものもある。そのような経験は、周囲からの評価よりも自分自身の想像力に頼る習慣を強めた可能性がある。彼はまた幼い頃からコンピュータに興味を持ち、独学でプログラミングを学んだ。12 歳になる頃には簡単なビデオゲームを作り、コンピュータ雑誌に販売していた。これらの幼少期の経験は、困難な問題であっても知識、発明、そして粘り強さによって解決できるという信念を形成する助けとなった。

北米へ移住した後、マスクは 2002 年に SpaceX を設立するまで、さまざまな技術系企業に関わった。当時、多くの専門家は民間による宇宙開発を非現実的で、経済的にも実現困難だと考えていた。しかしマスクはそう考えなかった。彼は、ロケットを一度の飛行で廃棄するのではなく、再利用できるように設計すれば、宇宙旅行の費用を大幅に削減できると主張した。その後、SpaceX は再利用可能なロケットの開発に成功し、宇宙産業において最も影響力のある組織の一つとなった。この成果は、人類の火星探査が単なる夢ではなく、現実的な長期目標であるというマスクの確信を強めた。

こうした成果にもかかわらず、多くの科学者や技術者は大規模な火星移住に慎重な姿勢を示している。恒久的な居住地を建設するためには、放射線、食料生産、水供給、人間の健康に関する問題を解決しなければならない。批判者たちは、そのような計画に必要な莫大な資源は、地球上の差し迫った問題の解決に使うべきだと主張している。しかしマスクは、この二つの目標は矛盾しないと考えている。彼にとって、地球上の生活を改善することと、地球外での生活に備えることは、どちらも人類の未来への重要な投資なのである。

彼の構想が実現するかどうかは別として、それはすでに多くの人々の宇宙開発に対する考え方を変えている。

問 1 空所補充

(1) for 該当箇所は *humanity should not depend entirely on Earth for its future*. depend は自動詞であり, depend on A「Aに依存する」の形を取る。さらに depend on A for B で「BについてAに頼る」という語法になる。ここでは Earth が依存先, future が依存内容なので for が必要である。in を入れることはできない。

(2) programming 該当箇所は *He also became interested in computers at an early age and taught himself programming*.. teach は SVOO 型の動詞であり, teach O C の形ではなく teach O 名詞 の形になる。himself が目的語, programming が教えた内容を表す目的語である。teach oneself programming は「独学でプログラミングを学ぶ」という表現である。

(3) impractical 該当箇所は *many experts considered private space exploration unrealistic or economically impractical*. consider O C の SVOC 構文であり, private space exploration が O, unrealistic と impractical が C である。or によって二つの補語が並列されているため、空所には形容詞が必要になる。

(4) radiation 該当箇所は *problems involving radiation, food production, water supply, and human health*. involving は現在分詞で problems を後ろから修飾している。空所には involving の目的語となる名詞が必要である。food

production, water supply, human health と並列されている点にも注目したい。

問 2 as の用法

正解は④。本文の *describe him as socially isolated and sometimes bullied by other children* は describe A as B「AをBとして描写する」という語法である。文型は SVOC であり, him が O, socially isolated が C で, A=B の関係が成立している。④の *He is considered as one of the most influential innovators today*. は consider A as B の受動態であり, 同じく補語を導く as である。①の *as we know it today* は「私たちが今日知っているような」という慣用表現, ②の as は接続詞「～すると」, ③の as は接続詞「～したように」であり, 用法が異なる。

問 3 動詞の形

(A) faces 該当箇所は *a civilization that exists on only one planet faces risks*. 主語は a civilization であり, that exists on only one planet は civilization を修飾する関係代名詞節である。主節の動詞が空所であり, 主語が三人称単数現在なので faces となる。face や facing を置くことはできない。

(B) absorbed 該当箇所は *he was often quiet and deeply absorbed in books*. be absorbed in A は「Aに没頭している」という熟語である。absorbed は過去分詞形容詞として補語になっている。absorbing は「興味を引く」という能動的意味になるため不適切である。

(C) discarded 該当箇所は *to be reused rather than discarded*. rather than の前後には同じ文法形式が置かれる。reused が過

2026 年度対応 大阪大学予想問題

去分詞なので、空所にも過去分詞 *discarded* が必要である。*discard* や *discarding* を置くことはできない。

(D) *solve* 該当箇所は *help solve urgent environmental issues*。*help* は *help*+動詞の原形、または *help*+*to* 不定詞を取る動詞である。したがって *solve* が正しい。*solves*, *solved*, *solving* は文法的に続かない。

問 4 下線部(1) 和訳

模範訳:これらの幼少期の経験は、困難な問題であっても、知識、発明、そして粘り強さによって解決できるという信念を形成する助けとなった。英文は *These early experiences helped shape the belief that difficult problems could be attacked through knowledge, invention, and persistence.*。骨格は *These early experiences helped shape the belief* である。*that* 以下は *belief* の内容を説明する同格の *that* 節であり、「困難な問題は知識・発明・粘り強さによって解決できる」という内容を表している。*knowledge, invention, persistence* は 3 つの名詞の並列である。採点基準:6 点=全文正確, 5 点=大意正確, 4 点=*belief* の内容を把握, 3 点以下=*that* 節の誤読がある。

問 5 指示語問題

模範解答:再利用可能なロケットの開発に成功したこと。*This achievement* は直前の *SpaceX successfully developed reusable rockets* を受けている。*achievement* の具体的内容を書かなければならず、「ロケットの開発」だけでは不十分である。「再利用可能なロケットの開発成功」まで書いて初めて満点となる。採点基準:4 点=再利用可

能ロケットの開発成功, 3 点=ロケット開発成功, 2 点以下=抽象的で内容が不足。

問 6 下線部(3) 和訳

模範訳:彼の構想が最終的に実現するかどうかは別として、それはすでに多くの人々の宇宙開発の未来に対する考え方を変えている。英文は *Whether his vision is eventually realized or not, it has already changed the way many people think about the future of space exploration.*。whether A or not は「A であろうとなかろうと」、the way S V は「S が V する仕方・方法」という重要表現である。*it* は *his vision* を受けている。採点基準:8 点=全文正確, 6~7 点=大意正確, 4~5 点=*the way* の処理が弱い, 3 点以下=構文理解に大きな問題がある。

問 7 内容一致

正解はア・ウ。

(ア) 正しい

選択肢の和訳

マスクは、地球外に共同体を築くことによって、一つの惑星だけに依存する文明が直面する危険を減らせると考えており、そのため火星が彼の長期的構想の中心的役割を果たしている。

該当段落:第 1 段落

本文の該当箇所

According to Musk ... unexpected events

For this reason ... for its future

該当箇所の和訳

マスクによれば、一つの惑星だけに存在する文明は様々な危険に直面する。そのため彼は、人類が将来を地球だけに依存すべきではないと考えている。

解説

一つの惑星だけへの依存は危険であり、人類を多惑星種にする必要があるという本文の主張と一致する。

(イ) 誤り

選択肢の和訳

本文は、マスクがコンピュータに興味を持ったのは SpaceX 設立後であり、技術への関心は主として宇宙産業での仕事を通じて発達したと述べている。

該当段落:第 2 段落

本文の該当箇所

He also became ... programming

By the time ... computer magazine

該当箇所の和訳

彼は幼い頃からコンピュータに興味を持ち、独学でプログラミングを学んだ。12 歳までにゲームを作って販売していた。

解説

選択肢は「SpaceX 設立後」としているが、本文は幼少期からの関心を述べているため誤り。

(ウ) 正しい

選択肢の和訳

再利用可能なロケットの開発成功は、人類の火星探査が単なる夢ではなく現実的な目標になり得るというマスクの信念を支えた。

該当段落:第 3 段落

本文の該当箇所

SpaceX successfully ... space industry

This achievement ... long-term

objective

該当箇所の和訳

SpaceX は再利用可能なロケットの開発に成功した。この成果は火星探査が現実的な目標であるという確信を強めた。

解説

再利用ロケットの成功と火星探査の現実性が直接結び付けられているため正しい。

(エ) 誤り

選択肢の和訳

多くの科学者や技術者は、火星移住を地球上の環境問題や社会問題への対処よりも優先すべきだと考えている。

該当段落:第 4 段落

本文の該当箇所

many scientists ... to Mars

Critics argue ... on Earth

該当箇所の和訳

多くの科学者や技術者は慎重であり、批判者は地球上の問題解決を優先すべきだと主張している。

解説

選択肢は本文と逆の内容であるため誤り。

(オ) 誤り

選択肢の和訳

マスクは、地球上の生活改善と地球外での生活準備のどちらか一方を選ばなければならないと考えている。

該当段落:第 4 段落

本文の該当箇所

Nevertheless ... contradictory

In his view ... humanity's future

該当箇所の和訳

二つの目標は矛盾せず、どちらも人類の未来への重要な投資である。

解説

本文は両立可能であると明言しているため誤り。